

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立京都工学院高等学校 】

1 実践テーマ	I ・ III ・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	2年生 7クラス 238名 (男子207名、女子31名)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 (人権教育)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>車いすバスケットを体験することと、選手の講話を聞くことにより障がい者に対する理解を深め、共生の大切さを学び自分の生き方を考える機会とする。</p> <p>また様々なことに対する偏見と誤解を払拭し、障がいのある人々が住みやすくなるために社会はどう変わらなければならないかを考える機会とする。</p>
5 取組内容	<p>(1) 事前学習として、車いすバスケットボールの歴史、競技概要、パラリンピックについて学習</p> <p>(2) 車いす体験 9月11日(木) 5・6限 趣旨説明 講師 選手紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師紹介 元全日本車いすバスケットコーチ 坂野 晴男 氏 (2000年シドニー、2008年北京パラリンピック出場) ・講師による選手紹介 選手6名 チーム：京都UPS(アップス)、レイク滋賀



・車いすバスケット用車いすの説明、車いすバスケットのルール、競技説明

生徒体験 クラス対抗車いすリレー（各クラス5名）

・坂野先生指導、実況アナウンスによるクラス代表生徒、教員対抗リレー

競技用車いすでの前進・ターン・後進



生徒体験 クラス対抗車いすバスケットボールのゲーム

選手による模擬演技

・坂野先生指導、実況アナウンスによるクラス代表生徒、教員対抗交流試合（1ゲーム4分）

選手との対話交流（5グループに分かれて 車座で対話）

障がい者となった経緯、バスケットを始めたきっかけ、意義など



		<p>質疑応答 まとめ、生徒代表謝辞 HRに戻り感想文の記入 終了</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>車いすバスケットボールの体験や、選手の体験談を通して、より深い学びや気づきを深めることができた。特に選手のマイナスの感情にむきあい、乗り越えようと思う精神力や、困難があってもあきらめずに頑張ろうという進む姿勢や明るさに心をゆさぶられたという感想が多く、共生の大切さを学び自分の生き方を考える機会となった。</p> <p>さらには、オリンピック、パラリンピックへの興味・関心をたかめることができた。</p>	
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>事前学習において、車いすバスケットボールの歴史、競技概要、パラリンピックについて学習した。</p> <p>実際に車いすに乗ることによって操作の難しさ、不自由さ、腕への負担の大きさ等を体験させた。</p> <p>感想文用紙は、車いす体験のことと、選手のお話についてを記入するような書式にし、記入後はデジタル化（PDF化）し全教職員がいつでも読めるようにした。</p>	
<p>8 主な課題等</p>	<p>車いす体験、車いすバスケットボール体験、選手との対話交流など貴重な体験ができた。</p> <p>しかし時間の関係で生徒全員が車いす体験ができなかった。全員が体験できるように内容を考え、もう少し時間を確保することで全生徒に体験させたい。</p> <p>事前学習において、障がい者に対する理解を深め、共生の大切さを学び自分の生き方を考える。また、さまざまなことに対する偏見と誤解を払拭し、障がいのある人々が住みやすくなるために社会はどう変わらなければならないかを考える学習をしっかりとる必要がある。</p>	
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>2年生の人権学習として、今年度と同様に車いすバスケットボールの体験学習を実施したい。</p>	